

令和2年度行政事業レビューシート(復興庁)

事業名	三陸復興国立公園等復興事業			担当部局庁	復興庁	作成責任者			
事業開始年度	平成24年度	事業終了 (予定)年度	令和2年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)	参事官	増田	直樹	
会計区分	東日本大震災復興特別会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	自然公園法第10条第1項			関係する 計画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性国家戦略2012－2020(平成24年9月28日閣議決定) ・復興への提言(平成23年6月25日) ・東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日閣議決定) ・岩手県東日本大震災津波復興計画(平成23年8月11日) ・宮城県震災復興計画(平成23年10月19日) ・三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン(平成24年5月7日) 				
主要政策・施策	観光立国			主要経費	公共事業				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災により、陸中海岸国立公園の公園利用施設の多くが甚大な被害を受けた。当該施設の復旧は、自然環境の保全のみならず、観光産業をはじめとした地元雇用の創出等、地域再建にも寄与するもの。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	三陸復興国立公園の集団施設地区、歩道等及び東北太平洋岸自然歩道の利用拠点において、安全・安心の観点から津波対策等の防災機能を強化しつつ、被災した既存利用施設の復旧整備や、観光地の再生に資する復興のための整備を行うとともに、国指定鳥獣保護区における保全事業を実施する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	1,288	450	237	178	-		
		翌年度へ繰越し	▲ 450	▲ 237	▲ 178	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	1,382	757	940	404	0		
	執行額	1,211		726	868				
	執行率(%)	88%		96%	92%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	223%		133%	99%				
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	国立公園等整備費	156		令和2年度限りの経費					
	国立公園等維持管理費	70							
	計	226	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 2 年度	
	震災前5年間の平均年間利用者数2,975千人に戻す。	三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)年間利用者数(※平成30年度成果については集計中)	成果実績	千人	1,430	-	-	-	-
			目標値	千人	2,975	2,975	2,975	-	2,975
			達成度	%	0.5	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	自然公園等利用者数調(環境省)								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込		
		活動実績	当初見込み								
三陸復興国立公園利用拠点及び公園外利用拠点の整備区域数		活動実績	箇所数		12	12	12	-	-		
		当初見込み	箇所数		11	12	12	12	-		
単位当たりコスト		算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込			
		単位当たりコスト=X/Y X:執行額、Y:成果実績 「利用者1人あたりに係る事業費」 (成果実績=「三陸復興国立公園」利用者数実績) (平成30,令和元年度見込については目標値より算出)						単位当たりコスト	円/人	847	244
				計算式	執行額/成果実績	1,211,000 /1,430	726,000 /2,975	868,000 /2,975			
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	-									
	施策	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進									
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標		目標年度	
									-	年度	2
	三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)の年間利用者数(震災前5年間の平均年間利用者数2,975千人) (※平成30年度成果については集計中)		実績値	千人	1,430	-	-	-	-	-	
目標値			千人	2,975	2,975	2,975	-	-	2,975		
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
当該事業を通じて、国立公園事業施設の復旧・復興を図ることで、国立公園の利用の回復・増進を図る。											

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	地域の重要な観光資源である三陸復興国立公園の早期復旧と新たな拠点整備であり、国による整備ニーズは高い。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国立公園の保護又は利用のための施設の整備・管理は、自然公園法上、国が執行することが原則となっている。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「東日本大震災からの復興の基本方針(東日本大震災復興対策本部、平成23年7月29日)」において国立公園の創設を核としたグリーン復興に位置づけられており、優先度は高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札を原則としつつ、業務等の性質に応じて支出先を選定している。競争性のない随意契約については、地方公共団体との取決めによるものであり、妥当である。	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	「自然公園等施設技術指針」に基づく整備が行われており、コスト等の水準は妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	中間段階においても、一般競争入札を原則としつつ、業務等の性質に応じて支出先を選定している。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的に合わせて支出されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は成果目標と比較して、前年と同程度で推移している。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	「自然公園等施設技術指針」に基づく整備が行われており、低コスト化が図られている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は見込みと比較して達成出来ている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	地域の重要な観光資源として年間利用者数は回復傾向にあり、活用が図られている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-		
	所管府省名	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	三陸地域の重要な観光資源である三陸復興国立公園の利用拠点等の施設を復旧するとともに、東北太平洋岸自然歩道を全線開通させることができた。令和2年度の事業の完了に向けて進捗管理を行っている。		
	改善の方向性	令和2年度に計画している事業について効率的・効果的な予算の執行を行い、事業完了後の令和3年度以降は、一般会計の自然公園等整備事業により引き続き国立公園等の利用環境向上に努める。		
外部有識者の所見				
令和2年度で計画通り終了することは適当。事業の検証を行い、成果や知見の活用をはかりながら、次年度以降も一般会計による適切な管理を行うこと。				
行政事業レビュー推進チームの所見				
終了予定	計画通り終了することは適当。事業の検証を行い、成果や知見の活用をはかること。			
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況				
予定通り	適切に事業の検証を行い、成果や知見の活用を図っていく。			

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	134	平成25年度	190
平成26年度	223	平成27年度	0223	平成28年度	0210	平成29年度	0170
平成30年度	0158						
平成31年度	復興庁 (0158)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



